

府立中津支援学校 令和元年度「学校運営協議会」議事録（第2回）

日 時	令和元年11月7日（木） 10:00～12:00			
出席者	協議会委員	所属等	学校事務局	校務分掌等
	五石 敬路	大阪市立大学大学院准教授	川田 和子	校長
	田中 博之	大阪整肢学院 院長	井筒 文彦	教頭
	花咲 典之	中津連合振興町会会長	水迫 英紀	事務長
	岡 博文	新梅田シイライオンズクラブ 前会長	川村 弘之	首席
	米田 秀	中津更生園施設長	入福濱 光	首席
	小林 信恵	大阪人間科学大学 客員教授	宇賀 功二	小学部主事
			山中 有美子	中学部主事
			清藤 和典	高等部主事
		矢田 秀人	進路指導部長	
傍聴人				
おもな テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の進路指導について ・保護者からの意見書及び授業アンケートについて ・令和元年度学校教育自己診断について 			
協議内容 の概略	<ul style="list-style-type: none"> ・授業見学 ・本校の進路指導について <ol style="list-style-type: none"> (1)進路指導部長より (2)高等部主事より (3)小学部・中学部の取り組み ・保護者からの意見書等について ・授業アンケートの結果について ・学校教育自己診断アンケートの実施について 			
提言内容・ 改善方策	<p>意見・提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導的には小中高と流れができてきていることは良かった。本人が意見を持つことは難しいと思うので、意識付けが必ず必要となってくる。本人が何ができるのか、コミュニケーションをどうとるのかといったことを把握できることが必要。組織として何がニーズなのかを考えて取り組んで欲しい。 ・アフターフォローマニュアルを作成し、卒業生へのフォローを行っているが、こうした取り組みは組織として続けてもらいたい。 ・学校では企業のニーズを読み、どういう人材を求めているのかを考えていく必要がある。そういう意味で、あいさつの指導など、人間関係上のコミュニケーションが取れるのかも大事な取り組みである。 ・学校がプラットフォームであるかの議論があるが、学校だけで担うのは限界がある。たとえば進路先を途中で辞めてしまい、学校と途中で切れてしまった場合は、誰もフォローができないので、居住地の行政(市)につないでほしい。 ・地域として就労に向けてできることがあれば協力していきたい。 ・ホームページの更新は、教材教具の分は行われたが、他の部分はあまりできていないので、開かれた学校として、引き続きWebの更新には留意してほしい。 			